

2025 年 4 月 3 日

古河電気工業株式会社

国立大学法人東北大学

道路標識など道路附属物の老朽化状況に関する

全国住民アンケートを実施

～ 約 8 割がメンテナンスに積極的に取り組むべきと回答、予防的修繕を望む住民意識が明らかに ～

- ・ 回答者の約 3 割が「自治体は道路附属物のメンテナンスを実施していると思わない」と回答。都道府県別では沖縄県が 41.3% で最も高く、東京都が 16.7% で最も低い
- ・ 回答者の約 8 割が「自治体は道路附属物のメンテナンスに積極的に取り組むべきだと感じる」と回答
- ・ 自治体に望むメンテナンスへの取り組み方針は「傷みが小さいうちに予防的な修繕を進め、できるだけ長持ちさせる」の回答が約 4 割で最多となり、既存の道路附属物の維持を望む住民意識が明らかに

古河電気工業株式会社（本社：東京都千代田区大手町 2 丁目 6 番 4 号、代表取締役社長：森平英也、以下：古河電工）と国立大学法人東北大学大学院工学研究科 久田研究室（以下：久田研究室）は、道路標識や標示などの道路附属物の老朽化状況についての住民アンケートを、全都道府県 7,050 名を対象に実施しました。

■ 調査の背景

道路標識や街路樹などの道路附属物は、日本全国で約 1,000 万本以上存在し、近年では老朽化にともなう落下事故も発生しています（別添の調査詳細資料に、「近年の道路附属物の事故一覧」を記載しております）。今後、労働人口がさらに減少することが予想されるなか、標識などの道路附属物においても効率的なメンテナンス方法の確立が求められています。

古河電工と久田研究室は標識などの道路附属物の効率的なメンテナンス方法を共同で研究していますが、住民通報からメンテナンスすべき道路附属物が明らかになることも多いため、このたび、全都道府県における住民の道路附属物の老朽化の認知状況等を調査するためにアンケートを実施しました。

■ 調査概要

- 調査方法：インターネットによる調査
- 調査対象：全国 20 代～60 代の男女（7,050 名（各都道府県 150 名ずつ））
- 調査実施期間：2024 年 12 月 5 日～7 日
- 調査機関：株式会社電通マクロミルインサイト

（注）調査結果は別紙をご覧ください。

■ 久田真教授（東北大学大学院工学研究科）による調査の総括



道路標識などの道路附属物も含めた道路インフラは、生活の要である一方で、適切な管理・メンテナンスを実施しないと重大事故の要因となります。トンネルや橋梁などの重要構造物については法定点検が定められていますが、道路附属物の点検について法律は制定されておらず、自治体などの道路管理者に一任されています。

調査の結果、各都道府県において、回答者の約 5 割が道路附属物の老朽化を認知している結果となり、各都道府県の道路附属物について、リスクがないとはいえないことが明らかとなりました。特に老朽化が進んでいると感じている住民が多いのは沖縄県や鹿児島県などのエリアでしたが、その理由や背景を明らかにするに

は、より詳細な調査・分析が必要だと考えます。

また、各都道府県における附属物のメンテナンス状況については、8 割弱がメンテナンスを強化すべきと考えている一方で、約 3 割が道路附属物のメンテナンスがされていないと感じていることが明らかとなりました。背景には、今後は道路附属物を新設するのではなく、既存のものをメンテナンスしていくのが望ましいという住民意識があることも調査からわかっています。

道路に関する関心事においては、道路附属物への関心度は「交通マナーの悪さ」など個人に直接影響を与える要素と比較すると低いものの、ひとたび道路附属物の落下事故が起これば住民が怪我をするリスクも高く、社会として非常に大きな課題と認識しています。今後も久田研究室では、古河電工と共同でより効率的な管理・メンテナンス手法の研究に加え、調査などを通じ情報提供を実施してまいります。

■ 調査の詳細

別紙「道路標識など道路附属物の老朽化状況に関する全国住民アンケート」をご参照ください。

■ お問い合わせ先

古河電気工業株式会社

広報部 村越

E-MAIL : fec.pub@furukawaelectric.com

（研究に関すること）

東北大学大学院工学研究科土木工学専攻

インフラ材料工学研究室

教授 久田 真

研究室ホームページ：

<https://tohoku-concrete.tech/contact>

（報道に関すること）

東北大学大学院工学研究科

情報広報室 沼澤

TEL : 022-795-5898

E-mail : eng-pr@grp.tohoku.ac.jp

以 上

道路標識など道路附属物の老朽化状況に関する 全国住民アンケート

2025/04/03

古河電気工業株式会社

古河電気工業株式会社（本社：東京都千代田区大手町2丁目6番4号、代表取締役社長：森平英也）と国立大学法人東北大学大学院工学研究科 久田研究室（以下：久田研究室）は、道路標識や標示などの道路附属物の老朽化状況に関する共同調査を以下の通り実施しました。

<調査背景>

道路標識や街路樹などの道路附属物は、日本全国で約1,000万本以上存在し、近年では老朽化にともなう落下事故も発生しています（本資料巻末に、「近年の道路附属物の事故一覧」を記載しております）。今後、労働人口がさらに減少することが予想されるなか、標識などの道路附属物においても効率的なメンテナンス方法の確立が必要となっております。住民通報からメンテナンスすべき道路附属物が明らかになることも多いため、この度、各都道府県において住民の道路附属物に対する老朽化の認知状況等を調査するためにアンケートを実施いたしました。

<調査概要>

- 調査方法：インターネットによる調査
- 調査対象：全国20代～60代の男女（7,050名（各都道府県150名ずつ））
- 調査実施期間：2024年12月5日～7日
- 調査機関：株式会社電通マクロミルインサイト

<調査トピックス>

- ✓ 各都道府県の約5割の住民が、「各道路附属物の老朽化」を認知
 - 老朽化に対する住民認知が特に大きいのは沖縄県と鹿児島県
- ✓ 各都道府県の8割弱の住民が、「道路附属物のメンテナンスを強化すべき」と考えている
- ✓ 各都道府県の約3割の住民が、「自治体による道路附属物のメンテナンスがなされていない」と感じている

＜久田真教授（東北大学大学院工学研究科）による調査の総括＞



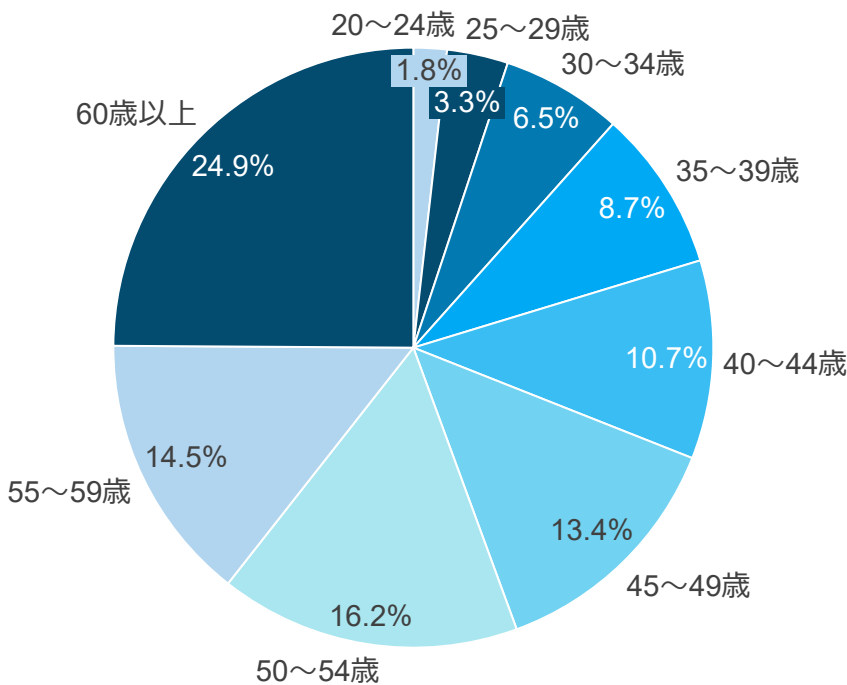
道路標識などの道路附属物も含めた道路インフラは、生活の要である一方で、適切な管理・メンテナンスを実施しないと重大事故の要因となります。トンネルや橋梁などの重要構造物については法定点検が定められていますが、道路附属物の点検について法律は制定されておらず、自治体などの道路管理者に一任されています。

調査の結果、各都道府県において、回答者の約5割が道路附属物の老朽化を認知している結果となり、各都道府県の道路附属物について、リスクがないとは言い切れないことが明らかとなりました。特に老朽化が進んでいると感じている住民が多いのは沖縄県や鹿児島県などのエリアでしたが、その理由や背景を明らかにするには、より詳細な調査・分析が必要だと考えます。

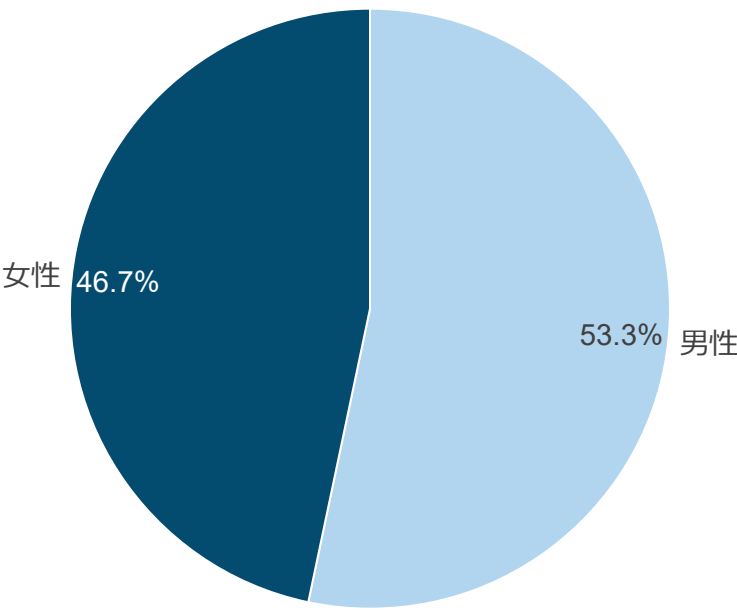
また、各都道府県における附属物のメンテナンス状況については、8割弱がメンテナンスを強化すべきと考えている一方で、約3割が道路附属物のメンテナンスがされていないと感じていることが明らかとなりました。背景には、今後は道路附属物を新設するのではなく、既存のものをメンテナンスしていくのが望ましいという住民意識があることも調査からわかっています。

道路に関する関心事においては、道路附属物への関心度は「交通マナーの悪さ」など個人に直接影響を与える要素と比較すると低いものの、ひとたび道路附属物の落下事故が起これば住民が怪我をするリスクも高く、社会として非常に大きな課題と認識しています。今後も久田研究室では、古河電工と共同でより効率的な管理・メンテナンス手法の研究に加え、調査などを通じ情報提供を実施してまいります。

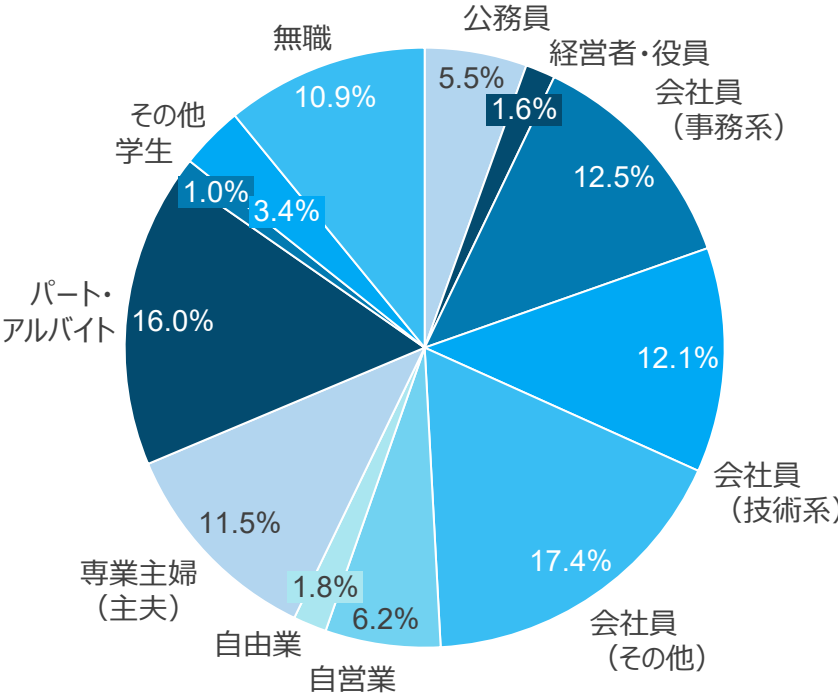
年齢



性別



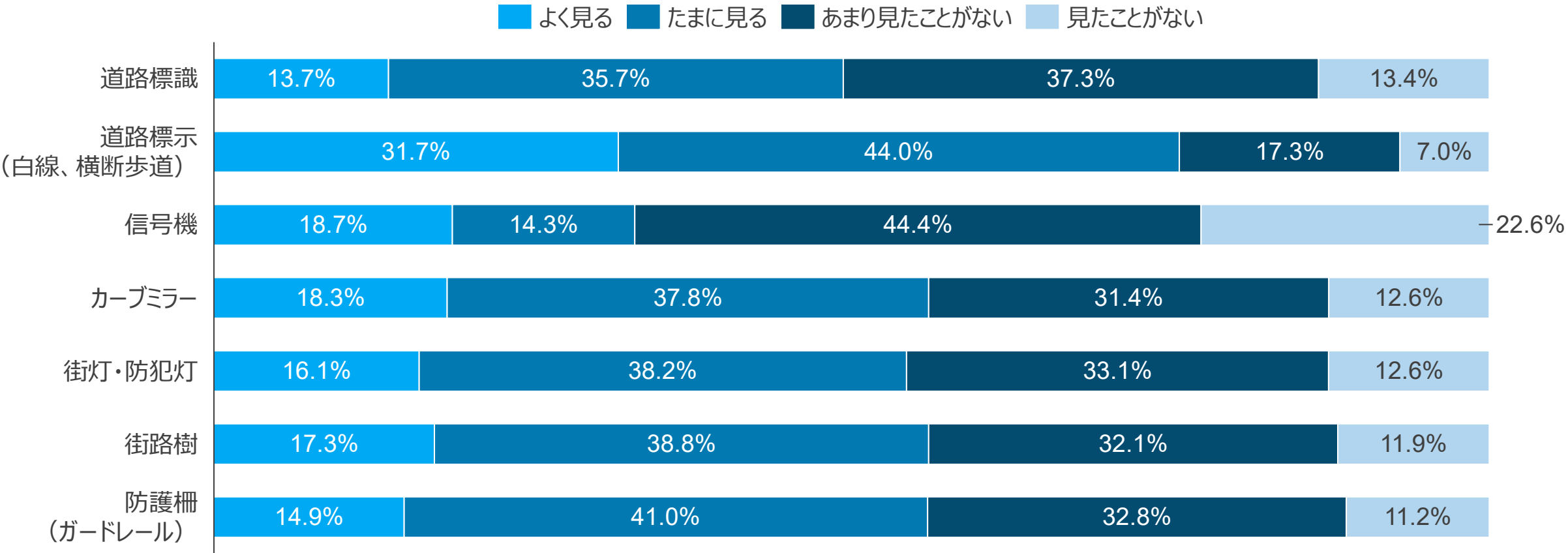
職業



老朽化した道路附属物の認知（道路附属物別）

- 道路標示が、最もメンテナンスが必要だと思われる。「よく見る」「たまに見る」の合計で75.7%を占める。
- 信号機を除く道路付属物においても、「よく見る」「たまに見る」の合計が50%前後を占めている。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。

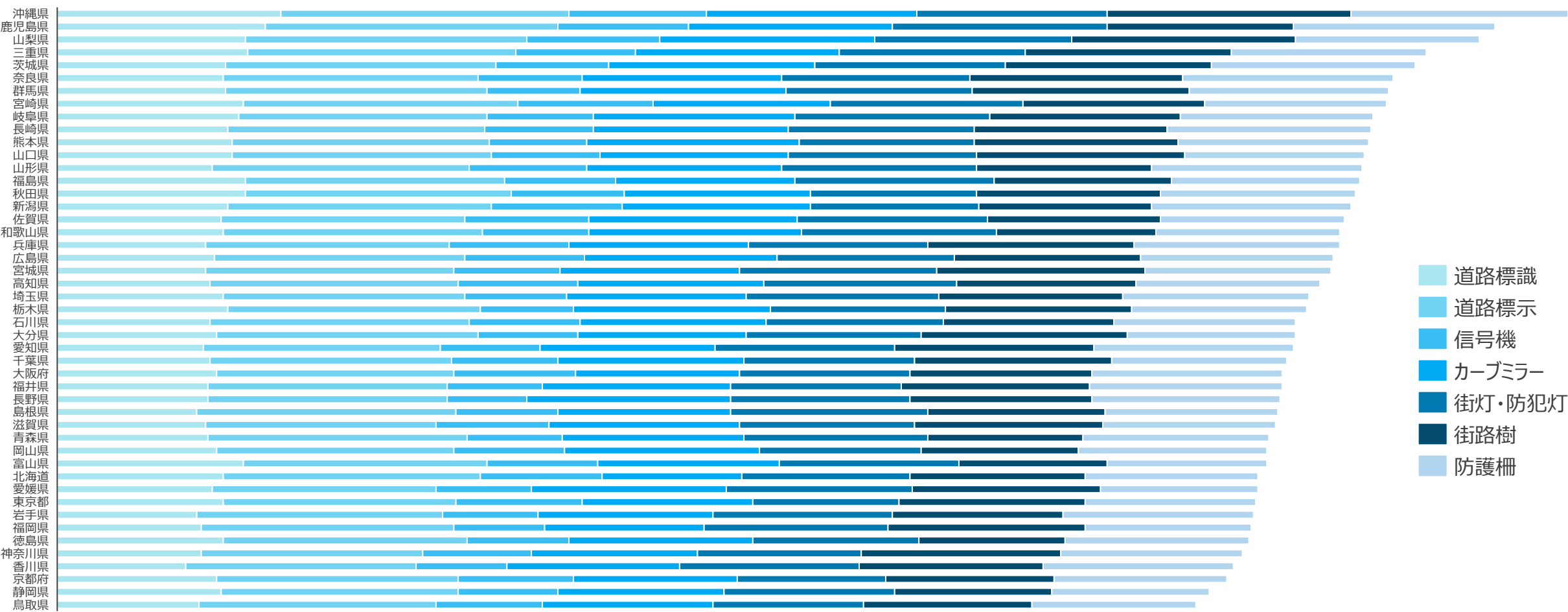


老朽化した道路附属物の認知（都道府県別）



- メンテナンスが必要な道路附属物を、最も多くの市民が認知しているのは沖縄県。次いで、鹿児島県、山梨県、三重県、茨城県の順。

Q:普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
対象7附属物の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計



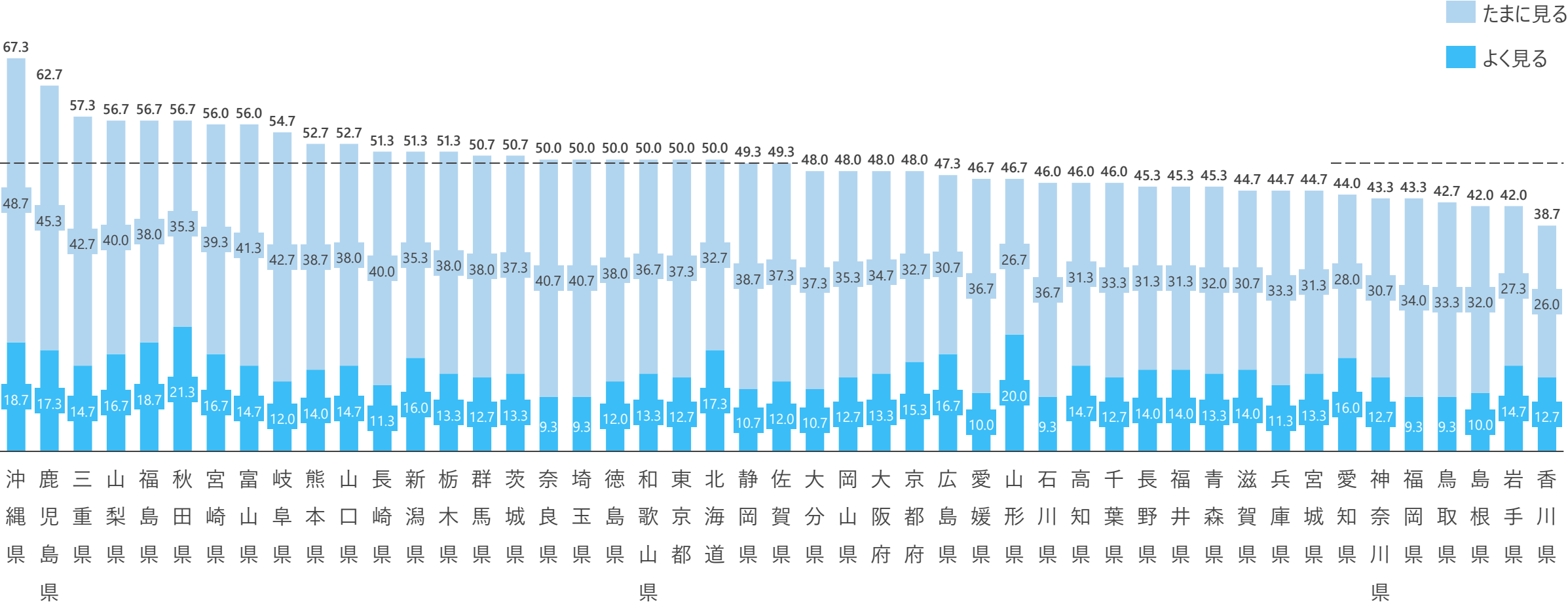
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (道路標識)



- メンテナンスが必要な道路標識を「よく見る」「たまに見る」の割合が最も高かったのは沖縄県。
- 次いで、鹿児島県、三重県、山梨県、福島県などが続く

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
道路標識の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」） 合計

※値は％
※「---」は平均値



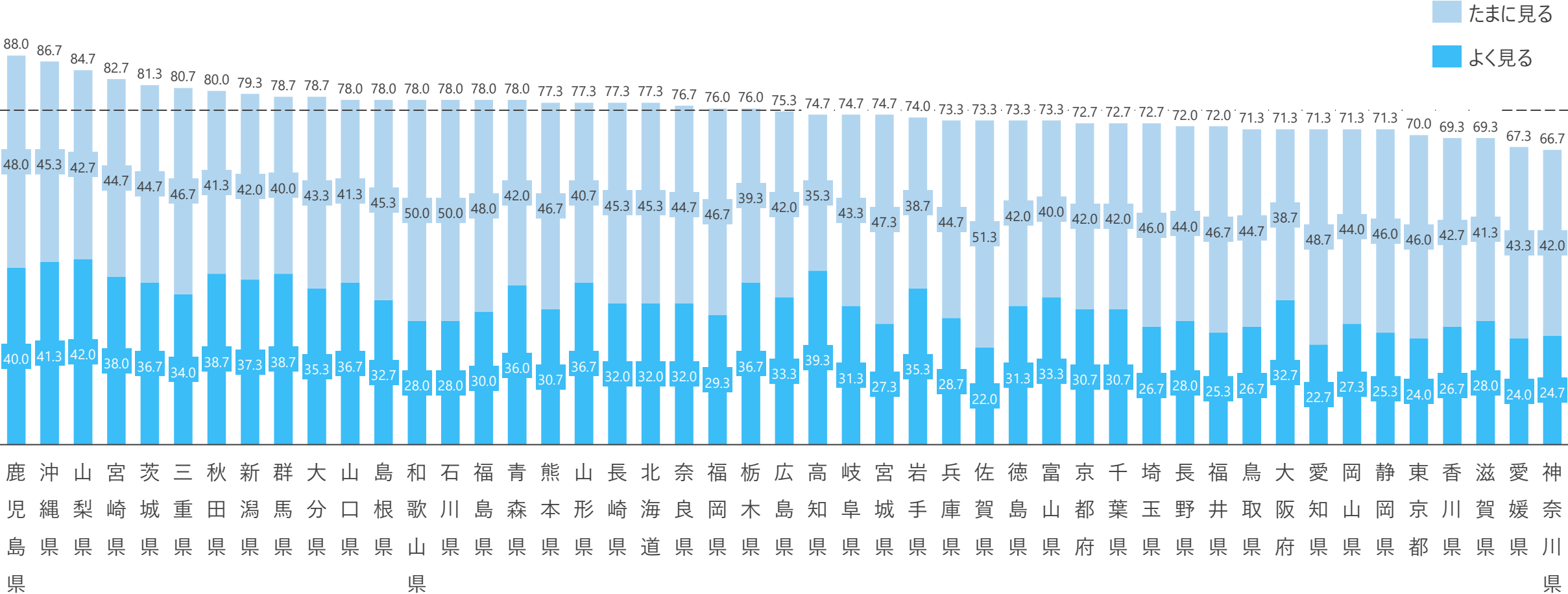
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (道路標示)



- メンテナンスが必要な道路標示を「よく見る」「たまに見る」の割合が最も高かったのは鹿児島県の88.0%。
- メンテナンスが必要な道路標識で Worst だった沖縄県では、道路標示でも鹿児島県の次に高い（86.7%）結果となった。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
道路標示の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は％
※「---」は平均値



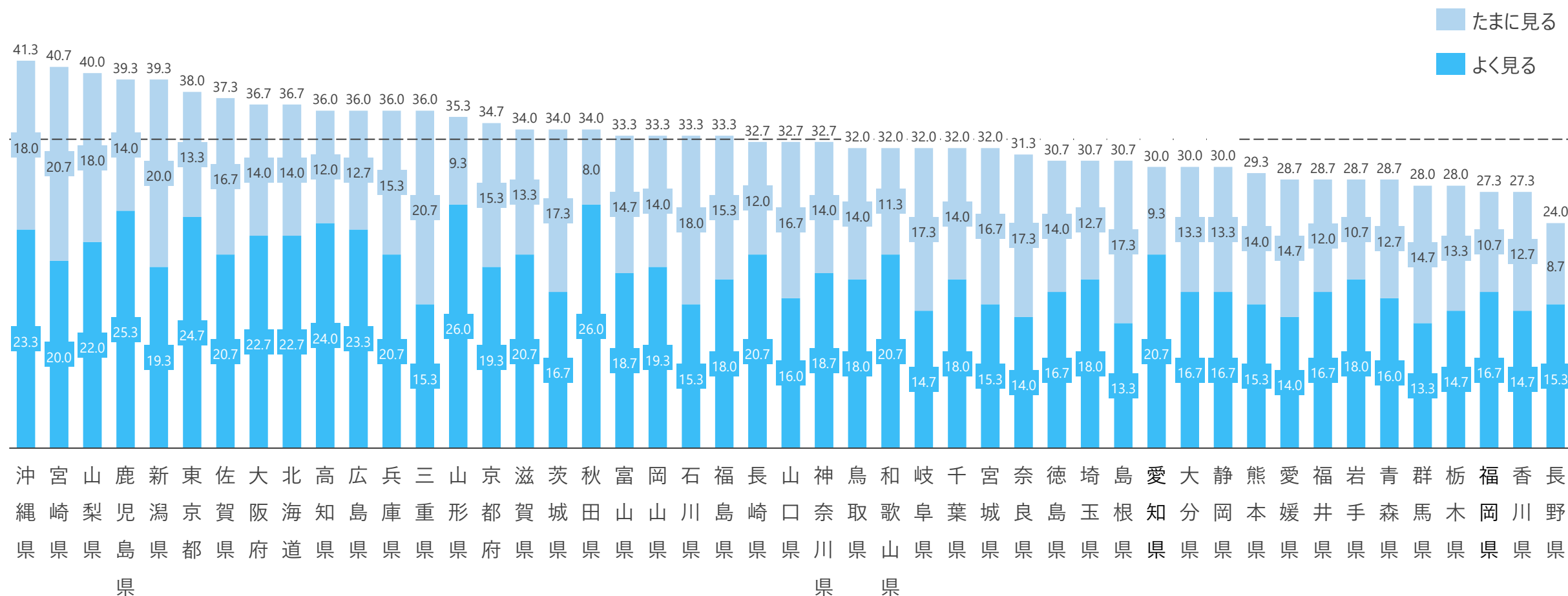
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (信号機)

- メンテナンスが必要な信号機の認知は、他の道路附属物と比較すると、全都道府県で低い傾向があった。
- 最も認知が高かったのは沖縄県で「よく見る」「たまに見る」の合計が41.3%

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
信号機の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



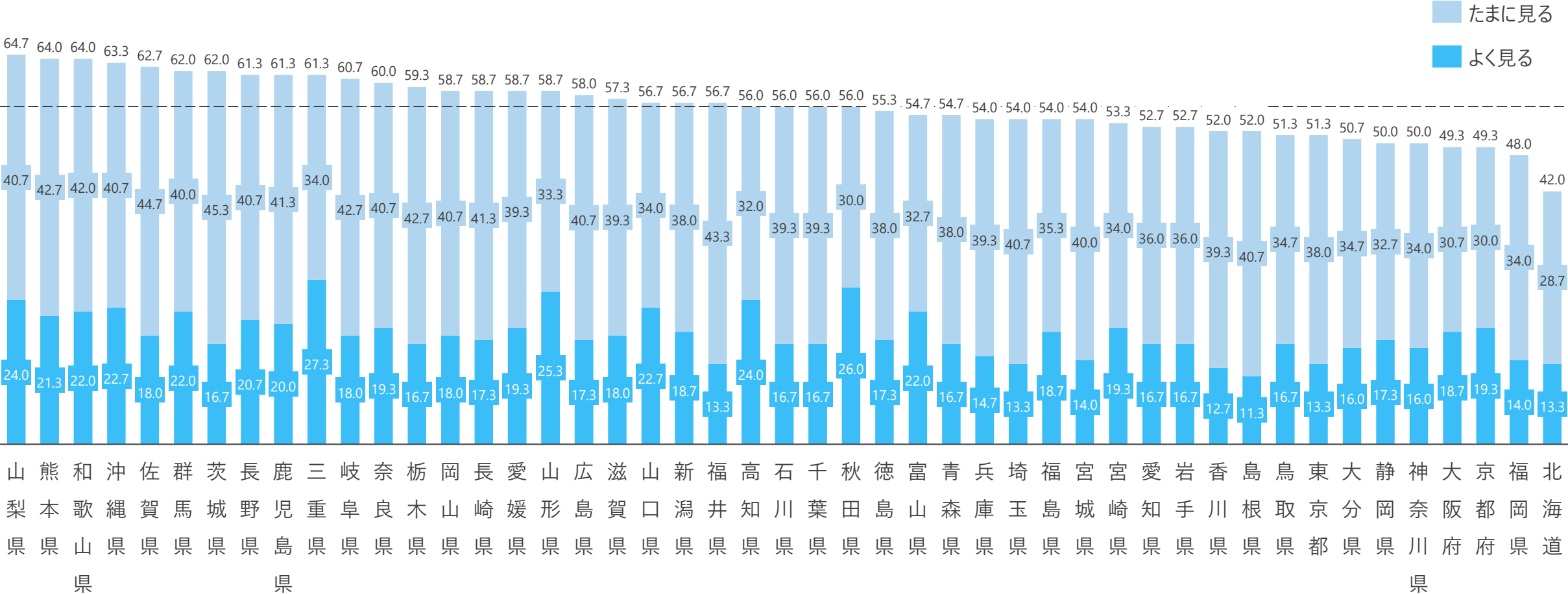
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (カーブミラー)



- メンテナンスが必要なカーブミラーを「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは山梨県（64.7%）
- 「よく見る」「たまに見る」の割合が一番低い北海道では平均値よりも14ポイントも低い42.0%という結果となった。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
カーブミラーの老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%
※「---」は平均値



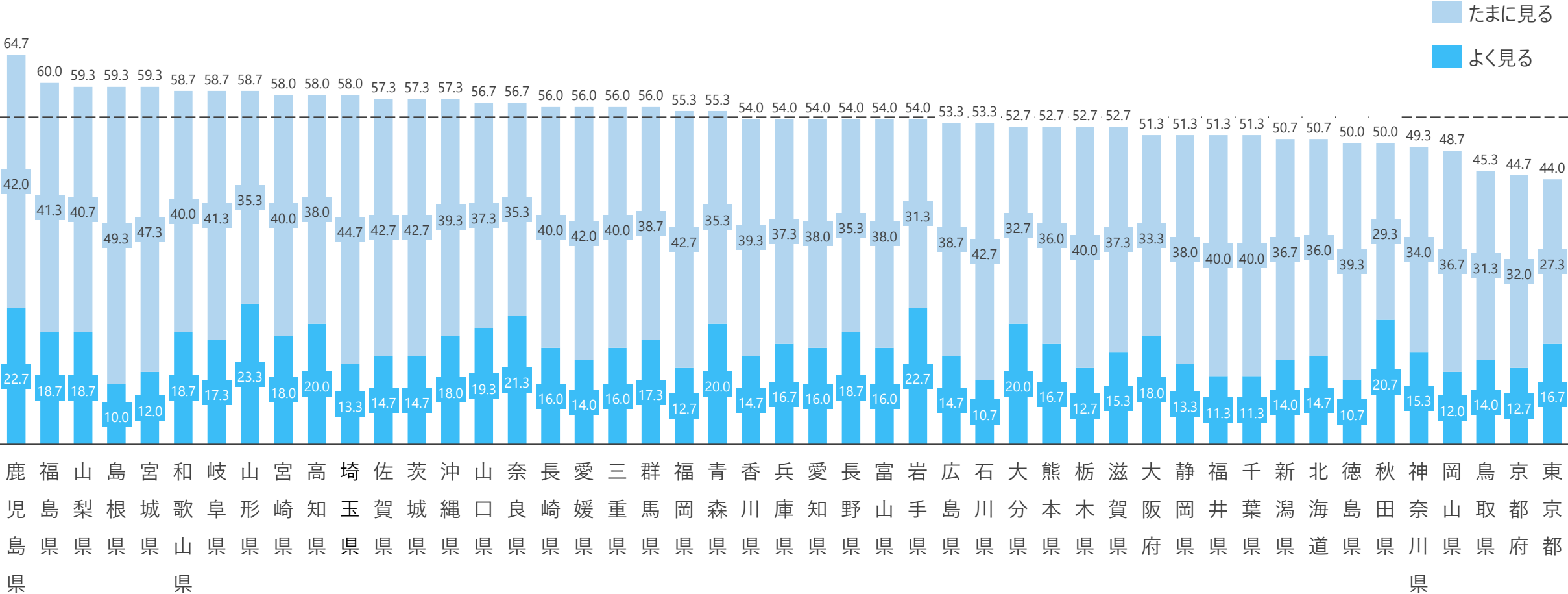
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (街灯・防犯灯)



- メンテナンスが必要な街灯・防犯灯の認知は鹿児島県が突出して高く64.7%となったが、全体的には平均値に値が集まっている。
- 他の附属物では割合が高く出る傾向のあった沖縄県でも、街灯・防犯灯では57.3%と比較的 평균値に近い結果となった。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
街灯・防犯灯の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」） 合計

※値は％
※「---」は平均値



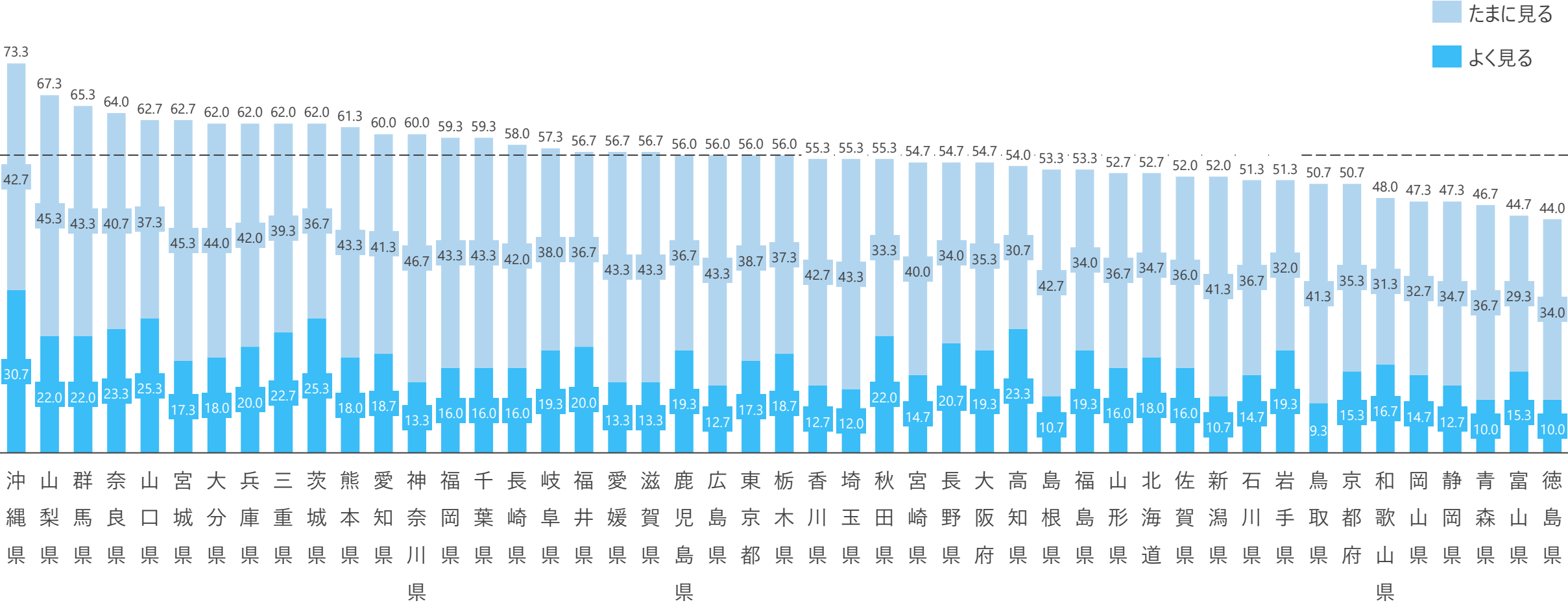
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (街路樹)



- メンテナンスが必要な街路樹が最も見られているのは沖縄県（73.3%）。道路標識と同等、平均値よりも18ポイント高く突出。

Q:普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
街路樹の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」） 合計

※値は％
※「---」は平均値



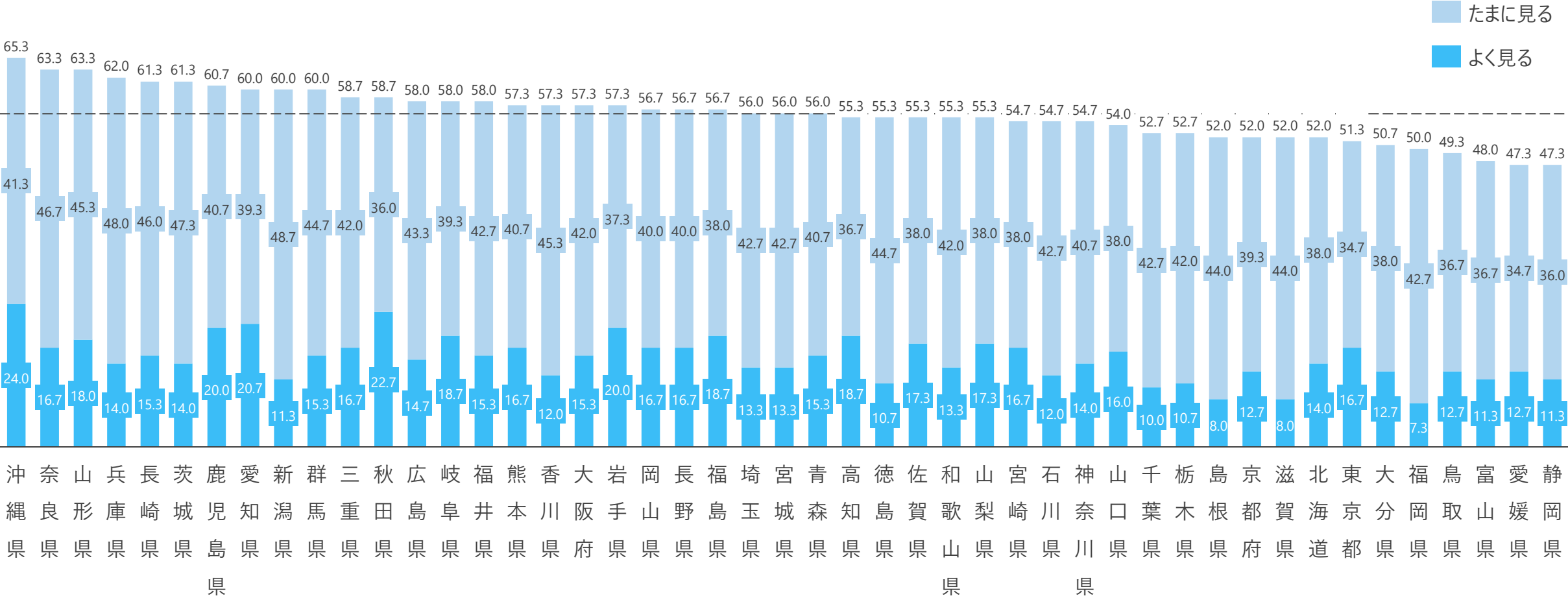
都道府県別での老朽化した道路附属物の認知 (防護柵)



- メンテナンスが必要な防護柵の認知が最も高いのは沖縄県となった。(65.3%)
- 次いで、奈良県、山形県、兵庫県、長崎県が続く。

Q:普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。
防護柵の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」） 合計

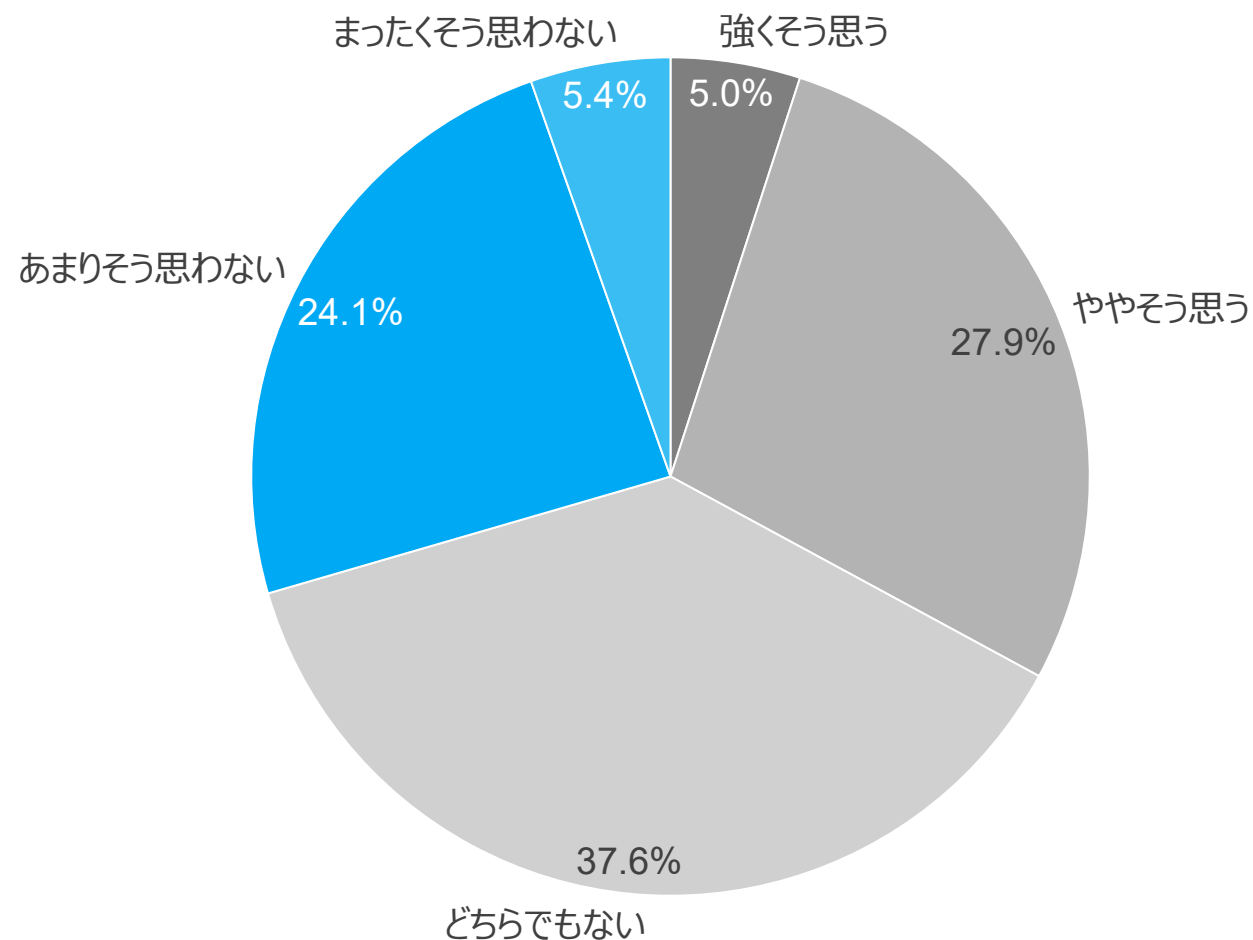
※値は％
※「---」は平均値



道路附属物メンテナンスについての自治体取組み状況の認知

- 自治体が道路附属物のメンテナンスを実施していると感じるか、について「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した住民が29.5%となり、約3割の住民からメンテナンスを実施していないとみられている。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）を実施していると感じますか。

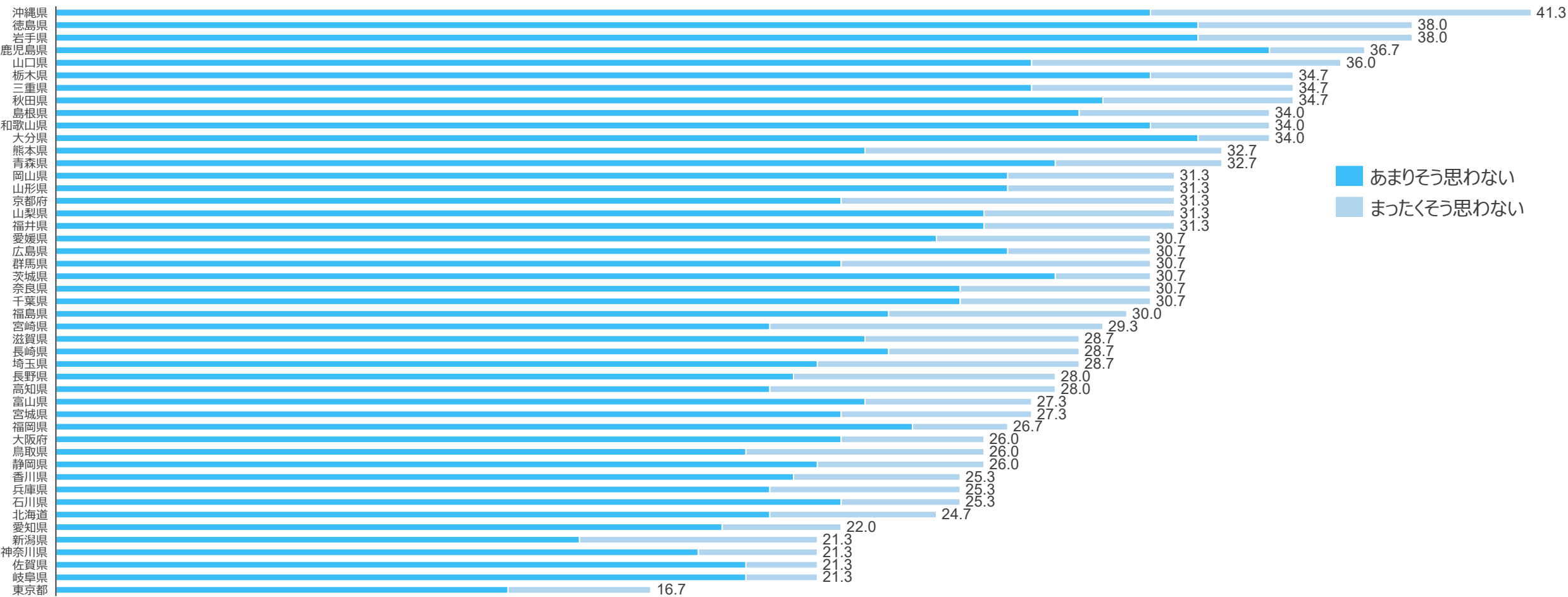


都道府県別での 道路附属物メンテナンスの自治体の取り組み状況の認知

- 自治体が道路附属物のメンテナンスを実施しているか、について「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」の合計が最も高いのは沖縄県（41.3%）

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）を実施していると感じますか。
「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」合計

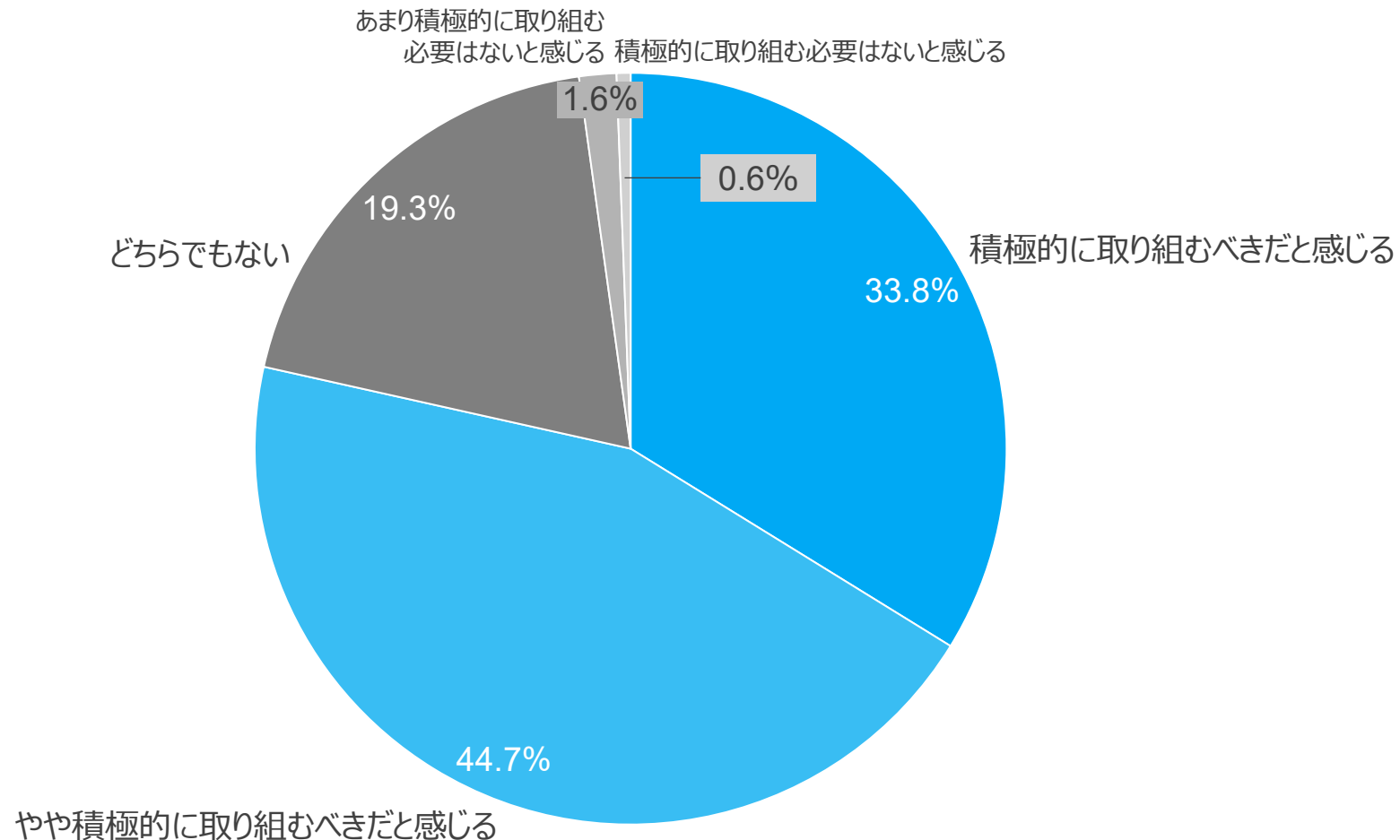
※値は%



自治体に対する道路附属物メンテナンスに関する要望

- 自治体が積極的に道路附属物のメンテナンスに取り組むべきか、については、「積極的に取り組むべきだと感じる」「やや積極的に取り組むべきだと感じる」の合計は78.5%となり、約8割の住民が道路附属物のメンテナンスを望んでいるという結果となった。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）に積極的に取り組むべきだと思いますか。

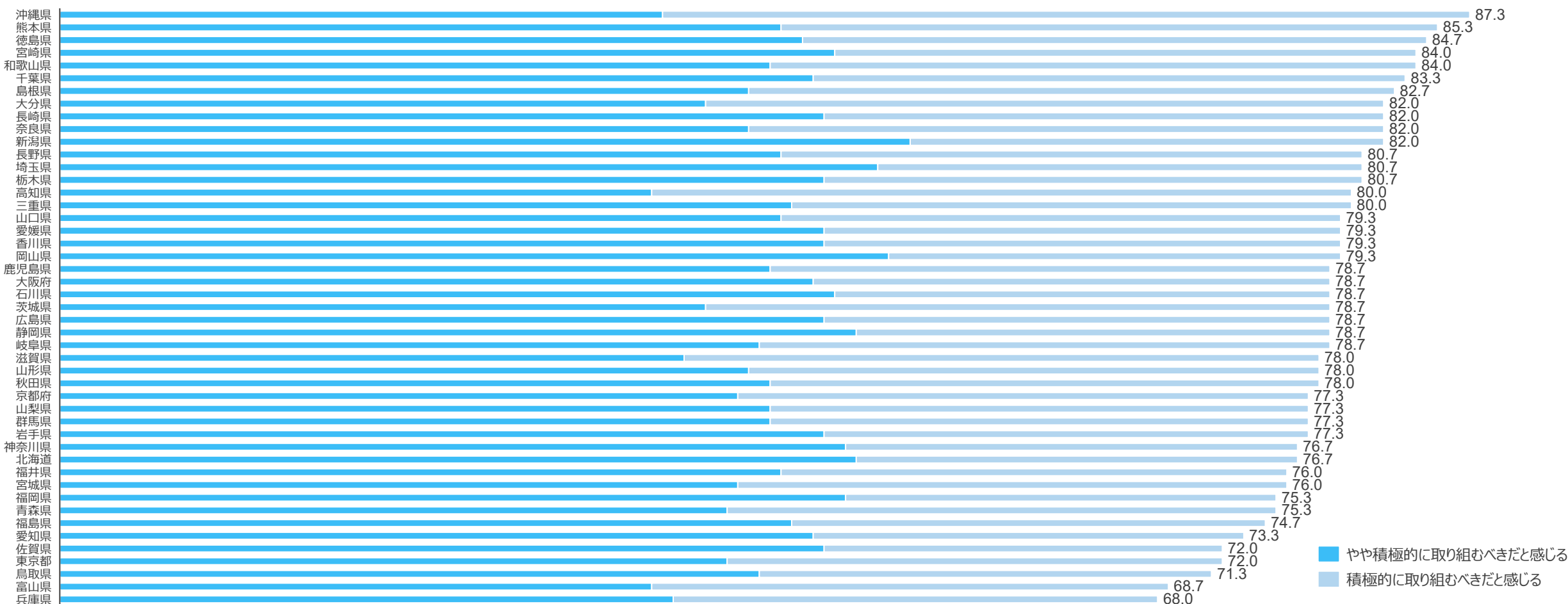


都道府県別での 自治体に対する道路附属物メンテナンスに関する要望

- 都道府県別で道路附属物のメンテナンスに「積極的に取り組むべきだと思う」「やや積極的に取り組むべきだと思う」の合計が最も高かったのは沖縄県（87.3%）となった。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）に積極的に取り組むべきだと思いますか。
「積極的に取り組むべきだと思う」「やや積極的に取り組むべきだと思う」合計

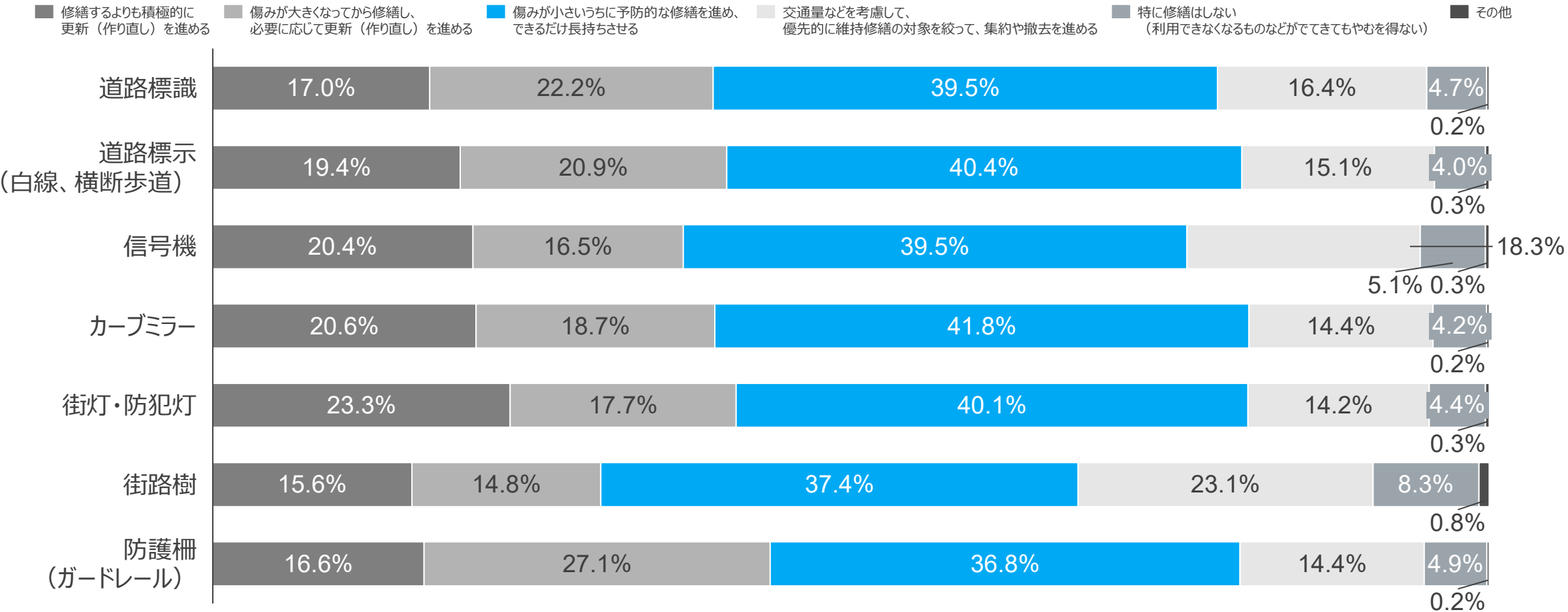
※値は%



自治体に望むメンテナンスへの取り組み方針

- 自治体に望む道路附属物の維持管理の方針として、対象の道路附属物すべてにおいて、約4割の住民が「傷みが小さいうちに予防的な修繕を進め、できるだけ長持ちさせる」を回答。

Q:今後自治体はどのように維持や修繕、更新を行うべきだと思いますか。



自治体に望むメンテナンスへの取り組み方針 フリーコメント抜粋

設置場所や設置数に関するコメントだけではなく、事故を予防するための定期的なメンテナンスを望む声が多く見られた。

Q:今後自治体はどのように維持や修繕、更新を行うべきだと思いますか。（フリーコメントのみ抜粋）

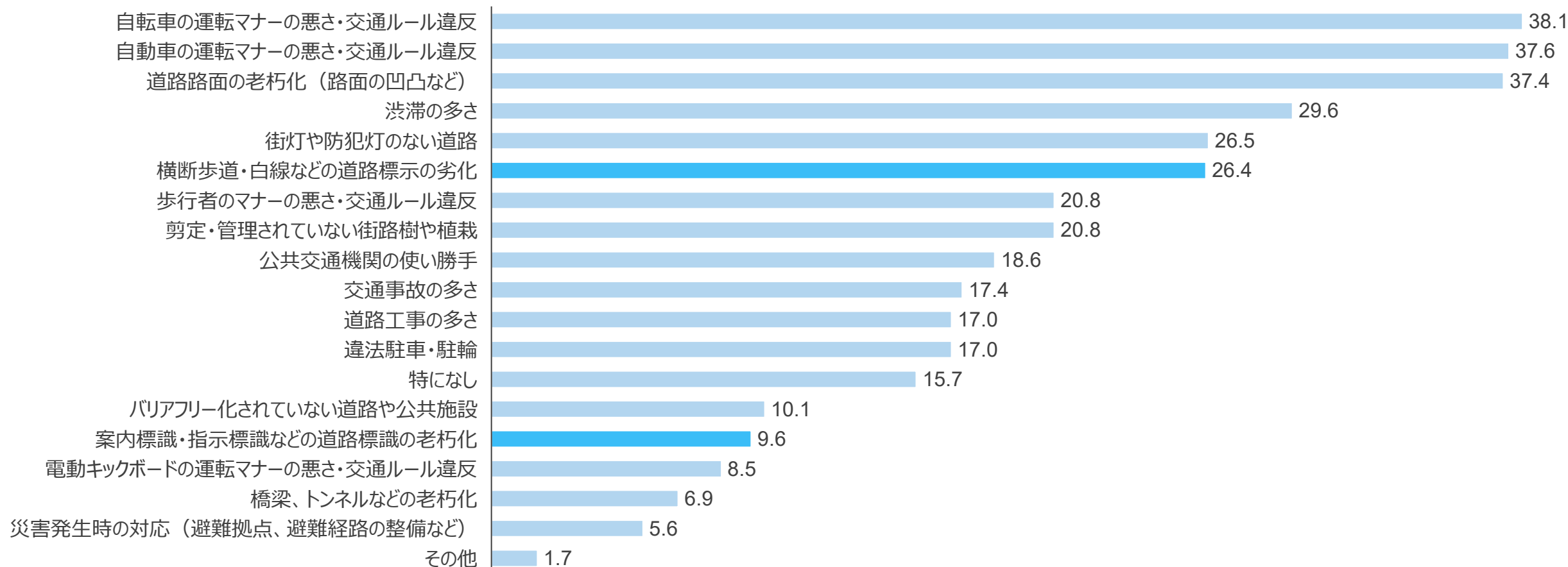
道路標識	・ 経済性に見合ったスケールの全体デザインを考え直すべき。 ・ メンテナンスにかかる費用等工夫した物へ改良する。法改正が必要であれば法改正する。 ・ 場所によらず定期的にメンテナンスする（メンテナンスできないものは設置しない）
道路標示	・ 道路上で消えかかっている白線をよく見る。夜間、それも雨の日はとても危険に感じる。 ・ 劣化を防止する工夫対策が必要である。
信号機	・ 車から確認できない角度の信号機は即刻位置を変更する。
カーブミラー	・ 経済的に維持できる量を把握したうえで計画的に進めるべき。 ・ まず磨いて。役に立たないカーブミラー少なくない。
街灯・防犯灯	・ 街中でも街灯なく暗くて歩行者に気づきにくい場所、結構ある。 ・ 維持・修繕の前に設置数が少なすぎる。
街路樹	・ 環境、景観等よりも、必要性の有無や、ドライバーや、歩行者目線になり、改善して欲しい。 ・ 視界を妨げる街路樹、垣根の撤去。事故が起こってからでは遅い。
防護柵（ガードレール）	・ 定期的にメンテナンスする（できないなら設置しない）

道路に関する不安事

- ・ 自転車や自動車の運転マナーの悪さ・交通ルール違反の割合がともに約38%で一番高い。
- ・ 道路附属物に関連する選択肢では「道路標示の劣化」が26.4%、「道路標識の老朽化」は9.6%となった。

Q:日常生活をする上で、道路に関して困っていること、不安に感じていることをすべてお答えください

※値は%



参考) 近年発生した道路附属物の落下事故

事故発生年月	事故の概要
2022年12月	・ 香川県丸亀市において市道脇のカーブミラーが倒れ、女性が乗った自転車の前かごに接触、頭を打撲する軽傷
2023年6月	・ 青森県おいらせ町にて町道の歩道脇の道路標識が倒壊、下校中の小学生のランドセルに接触
2024年2月	・ 東京都渋谷区道元坂において歩道の街灯が倒れる。けが人はなし
2024年3月	・ 仙台市泉区で区の管理する街路灯が乗用車に衝突し、40代女性がけが
2024年5月	・ 大分県日田市で道路標識がポールの根元から外れ、下校中の小学生がけが
2024年5月	・ 愛媛県新居浜市の市道のカーブミラーが倒れ、近くを歩いていた小学生が軽いけが
2024年7月	・ 静岡県静岡市において、市道の信号機支柱が倒れ反対車線を走っていた車に衝突
2024年9月	・ 東京都日野市のイチヨウ並木で枝が折れて落下、歩いていた男性が下敷きになり死亡
2025年1月	・ 島根県出雲市で街灯の支柱が折れ、登校中の小学生にあたりけが

ご清聴ありがとうございました
Thank you

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、
世界を明るくする。

